

## 2023 年度入学試験問題

学校推薦型選抜・特別選抜(社会人・帰国子女)・第3年次編入学

# 小 論 文

### 注 意

1. 指示があるまで、手を触れないこと。
2. 指示に従って、解答用紙に受験番号（算用数字）および氏名をはっきりと記入すること。
3. 解答は、解答用紙の指定された箇所に、横書きで記入すること。
4. 問題冊子は10ページである。もし、問題冊子に落丁、乱丁などがあれば、ただちに申し出ること。
5. 解答用紙は問題1、問題2の2枚である。地域推薦Aには問題1の解答用紙を、それ以外には両方の解答用紙を問題冊子に挟み込んで配付している。解答用紙の過不足、汚れなどがあれば、ただちに申し出ること。
6. 地域推薦Aは問題1を解答すること。それ以外は問題1、問題2の両方を解答すること。
7. 問題冊子は持ち帰ること。

## 問題 1 (100 点)

次の文章を読んで、設問に答えなさい。

SDGs<sup>(注1)</sup>のこれからにとって必要なこと、それは各自が2030年の世界のかたちを考えながら、行動をとっていくことである。行動の単位は、一市民としての個人であったり、会社人としての個人であったり、あるいは仕事や組織の一員やリーダーとしての行動、そしてその結果としての会社や組織における行動であったりと、さまざまである。違いはあれ、さまざまなレベルで行動を起こすことで、すべてが始まっていく。その際大事なことは、型にはめるのではなく、「自分なり」の個性を生かした行動をとることである。

筆者自身、それまで仕事がメインでSDGsを考えていたが、あるとき行動に移す機会に恵まれた。家づくりである。

家族が増えることをきっかけに、手狭になってきたマンションから引っ越すことを考えはじめた。ちょうどそんな折、建築家の同僚に、ふとした立ち話の最中に、どこのディベロッパー<sup>(注2)</sup>やハウスメーカーが良いのか、尋ねてみた。そうしたら、彼の口からは想像もしていない答えが返ってきた。

「建築家と家をつくるのが良いんじゃない？ そして、蟹江さんがつくるのであれば、SDGs達成を目指した家にするべきでしょう」

この言葉をきっかけに、同僚の小林<sup>こばやしひろと</sup>博人、それに彼の紹介で加わった川島<sup>かわしまのりひさ</sup>範久と一緒に、「SDGハウス」づくりに取り組むことにした。このプロジェクトによって、SDGsが一気に自分の身近なことの一部分として感じられ、研究対象であるばかりでなく、「他人ごと」ならぬ「自分ごと」になっていったように思う。こうした、何か自分のできる、そして関心を寄せることについて、行動を起こすことで、いろいろな発見がある。それは、「自分ごと」化するうえで非常に重要なことのように思う。

SDGハウスではいろいろな発見が現実のものとして出てきた。たとえばコストの問題である。SDGsは経済、社会、環境の3つの側面をもっているが、それまで筆者は、経済や社会の持続性を考えるための前提条件として環境や地球の課題があることから、環境の持続性を取り込むことがこの問題の核心であり、最も難しいと考えてきた。しかしSDGハウスプロジェクトを行うことで改めて感じたのは、コストをかけ

れば環境を守ることはいろいろとできる，ということである。技術はかなり発展している。しかし，環境に良い商品というものは，今の経済システムのなかでは高価格の商品が多い。普及している金属や石油化学製品のほうが，木材を使ったものよりも安い。木材にしても，認証材を使おうと思うと，どこから来ているのかのトレースができない集成材よりも高くつく，といった具合である。あるいは，家のかたちをはじめ，環境に優しいといわれる素材もいろいろなレベルがあるなかで，たとえば高級感を出しながら環境に優しい素材となると，コストがより多くかかる。プライバシーを確保しながら開放的な空間を確保しようとする，複雑な構造となり，そこにもまたコストがのってくる，という具合である。

コストの問題は，自分の財布ということになると，現実的に深刻な問題として降りかかる。実は経済の持続可能性こそが，環境の持続可能性を確保するために重要な要素となっているわけである。これを広げて考えれば，現在の経済システムのなかでは，大量生産，大量消費が可能な石油化学素材を使った商品のほうが，持続可能な素材を使用した商品に比べて安く手に入り，そのことがまた経済合理性を再生産していることに気付く。そうすると，生産システムを変え，たとえばSDGsのなかの12・c<sup>(注3)</sup>でもいうように化石燃料補助金を減らし，持続可能な素材を使用した商品の競争力を増していくことが，結果的に持続可能な商品の活用につながることも，実感としてわかってくる。

(中略)

本書を通じて繰り返し述べてきたのは，SDGsは達成へ向けたルールがなく，到達点だけが示されているという点である。つまり，やり方はいろいろある。しかし，SDGsという骨格だけは外してはいけないということである。

人生にはそれぞれ目指すところがあるだろうし，企業や自治体にもそれぞれ目指すところがあるだろう。SDGsは目標といっているものの，企業や自治体は，SDGsのためだけに事業や政策を行っているわけではない。それらの主体はそれぞれの事業があり，たとえばモノづくりで人を幸せにしたり，あるいは何かのサービスを提供して人を幸せにすることが目標であったりする。それは，事業をするうえでの喜びにもつながっているであろう。SDGsはそういった個別目標にとって代わろうというものではない。

そうではなく、個別目標を達成するために押さえておかなければいけないチェックポイントとでもいうべきものが、SDGsにより適したイメージではなからうか。それぞれの個別目標を目指しながら、二酸化炭素をどんどん出してしまえば、自らの利益と地球の利益とが相反してしまう。あるいは、個別目標達成に目をとらわれた挙げ句、社員に過重な労働を背負わせても、会社の利益と個人の幸せとが相反してしまう。そういった矛盾を生じさせずに、個別利益と全体利益との整合性をもたせるためのチェックリストがSDGsなのだろう。

これは、「囚人のジレンマ」に代表されるような、個別合理性と社会的合理性の調和が困難な「公共財」の確保にまつわる問題に対して、解答を与える可能性がある手段としても、興味深い。囚人が自らの刑を軽くしようと、共犯者を裏切って自白すると、共犯者も同じ行動をとったときに、結局お互いの犯罪が明らかになってしまい、双方ともに刑が重くなるというのは古典的な例である。転じて、たとえば各国が自国の経済的利益のみを追求すると、結局地球全体の利益としての気候変動対策ができなくなるというのもこうした例の一つである。従来から、個別合理性を追求すると、社会全体の合理性が損なわれることになるということは、経済学的にも説明されてきた。

しかし、個別合理性の追求の際に、全体の利益と整合的であるかのチェックを行い、修正可能であれば修正の方策を見つけ、すぐに修正できなければ時間をかけて仕組みや技術のイノベーションで解決を目指していくことができれば、個別合理性と社会的合理性の調和の道も開けてくるのではなからうか。実は、筆者がSDGsに最も期待したい点は、こうしたことである。SDGsという歴史上はじめての大きな社会実験がこれを証明できたときには、地球と人類には明るい未来が開けてくるような気がしている。逆にいえばそれができない限り、地球と人類は限界に突き当たることになる。

そうした意味では、SDGsは、21世紀を生き抜くための最低限の目標であるといつてよい。その先の個々の目標実現のために、通っておかなければいけない通過点としての目標である。個々の目標は多様であるべきなので、やり方はいろいろある。その多様性がまた、新たなやり方を生み出す力になり、そうした力が合わさって、さらに大きなイノベーションが起こる可能性も出てくる。

これからの世界は、AIも進化するだろうし、IoT<sup>(注4)</sup>もさらに進み、個々のモノのコネクティビティ（つながり）も高まっていくだろう。さまざまな可能性のなかに

は、人類や地球にとって悪用されかねない可能性も含まれる。技術が悪用されないよう、これまでもさまざまなところで規制がかけられたり、倫理規定が設けられてきた。そうした技術の展開も含め、通らなければいけない最低線がSDGsだといえるのではなかろうか。

【出典】蟹江憲史『SDGs（持続可能な開発目標）』（中公新書，2020年）

注1 SDGs：Sustainable Development Goals（持続可能な開発目標）の略称。

注2 ディベロッパー：開発業者。

注3 12・c：SDGsに掲げられている17の目標のうち、12番目の目標「つくる責任  
つかう責任」を構成する一つであり、「破壊的な消費を奨励する非効率的な化石燃料の補助金を合理化する」と書かれている。

注4 IoT：Internet of Things（モノのインターネット）の略称。身の回りのあらゆるモノがインターネットにつながる仕組み。

※ 出題にあたり、原文の縦書きを横書きに改めた。また小見出しを削除した。

設問1 筆者は、「SDGハウス」づくりを通じて行動を起こすことで、いろいろな発見があることが、なぜ非常に重要なことのように思えたのか。本文の主張に即して250字以内で説明しなさい。

設問2 傍線部について、筆者が述べている「個別合理性と社会的合理性の調和」を踏まえて、SDGsに対する、あなたの考えを具体例を挙げながら550字以内で述べなさい。

## 問題 2 (100 点)

図 1 ～ 6 は日本人の国民性調査\*に関する図です。各図のタイトルは調査の質問文です。これらをもとに、以下の設問に答えなさい。

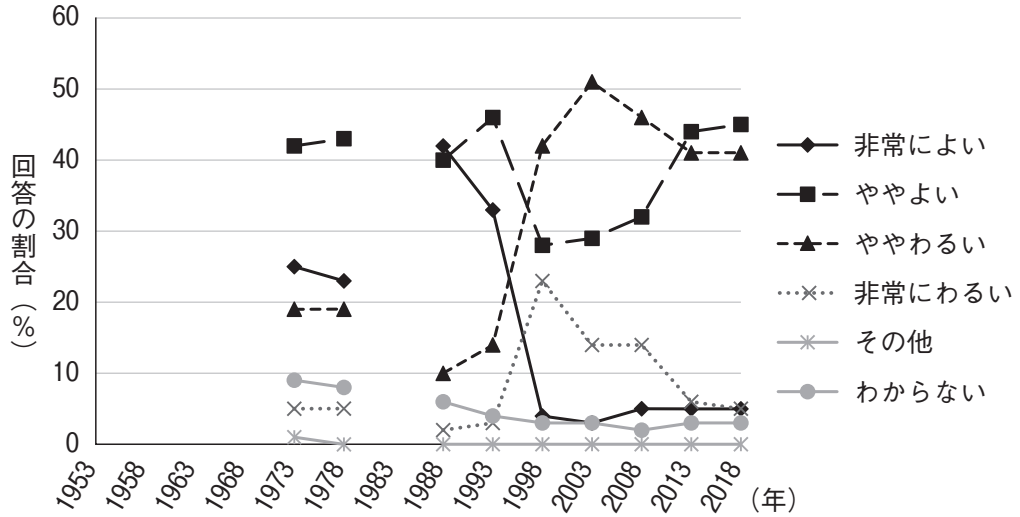
\*国民性調査：この調査は文部科学省所管の統計数理研究所が行っている統計調査の一つで、日本人のものの見方や考え方とその変化を、社会調査によってとらえようとしたものです。調査が始まったのは戦後間もない 1953 年です。その後 5 年ごとに調査が繰り返されていて、2018 年には第 14 次調査が行われました。これらの調査は、基本的には同じ調査手法・同じ質問項目で実施されています。ただし多くの項目が繰り返し調査されていますが、必ずしも全ての項目が毎回調査されているわけではありません。調査対象は 20 歳以上 85 歳未満の日本人男女およそ 2000 人～6000 人で一人ひとり面接による調査が行われています。各回とも、統計的な無作為抽出に基づく標本に対する科学的な調査が行われています。

設問 1 日本の社会経済情勢を踏まえて、図 1 ～ 3 をもとに、日本経済、日本人の生活水準及び社会への満足度について、350 字以内で説明しなさい。

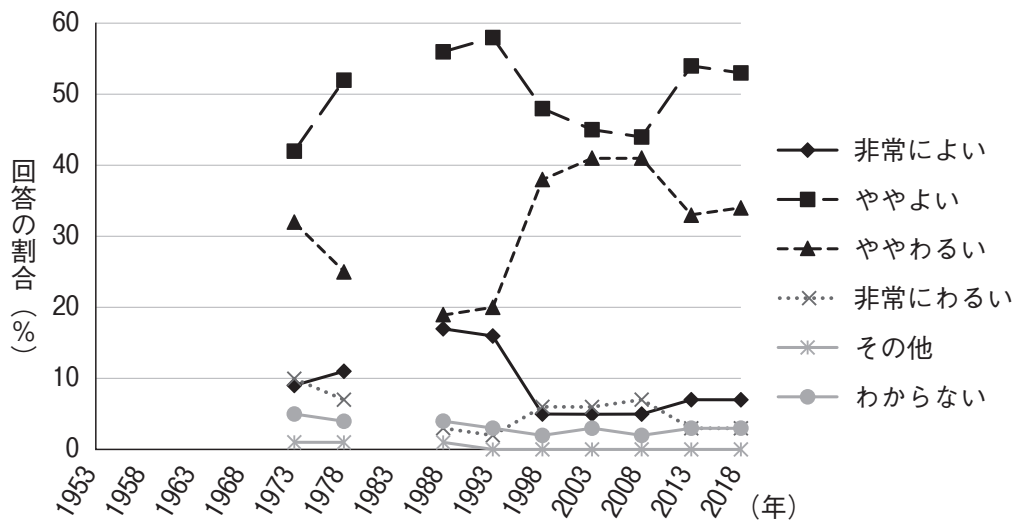
設問 2 女性の社会進出を踏まえて、図 4 ～ 6 をもとに、過去から現代にかけて、男性と比較した上で女性の生活環境をめぐる意識の変化について、あなたの考えを 450 字以内で述べなさい。

図1 日本の「経済力」と「生活水準」という点では、日本はどれでしょうか？

日本の「経済力」



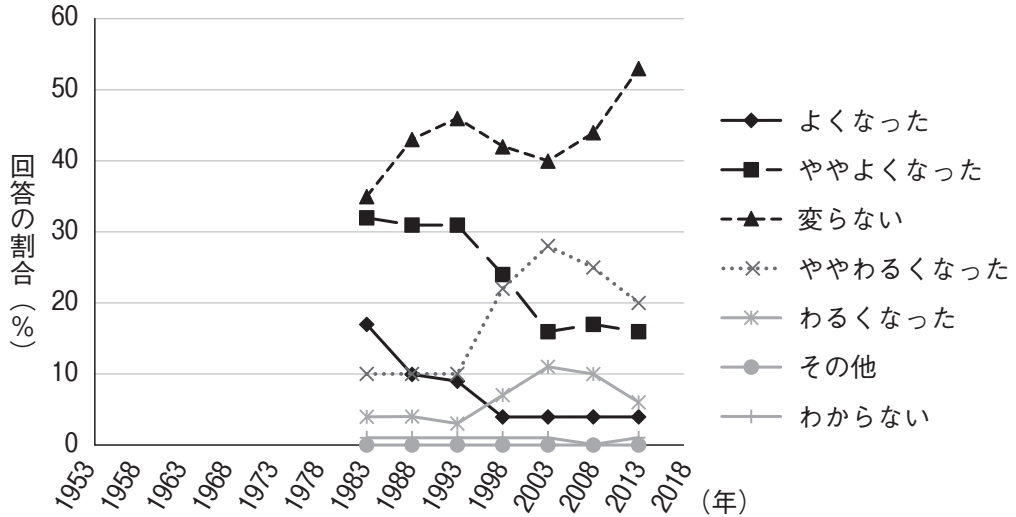
日本の「生活水準」



(出典) 統計数理研究所「日本人の国民性調査」より作成

図2 あなたの生活水準は、この10年間でどう変わりましたか？

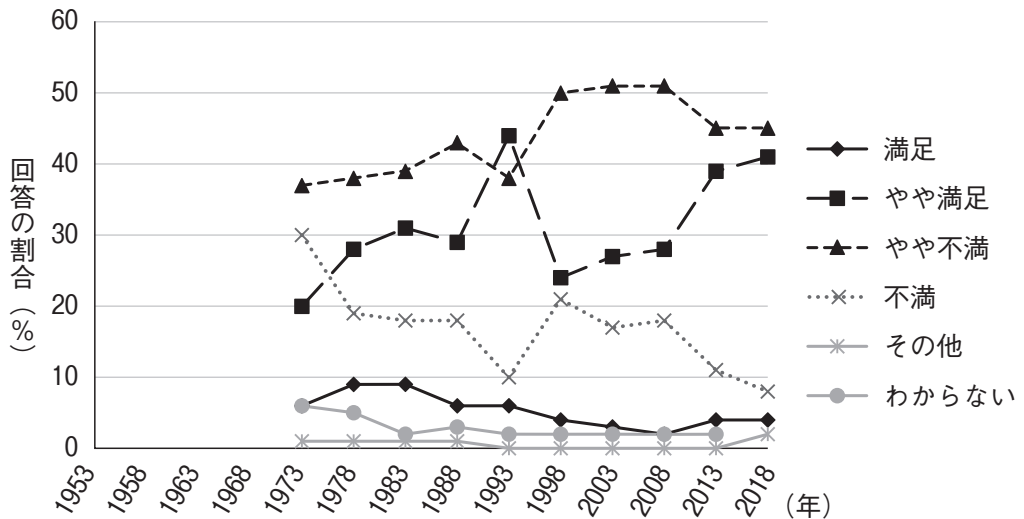
生活水準 10年の変化



(出典) 統計数理研究所「日本人の国民性調査」より作成

図3 あなたは、「社会」に対して満足していますか、それとも、不満がありますか？

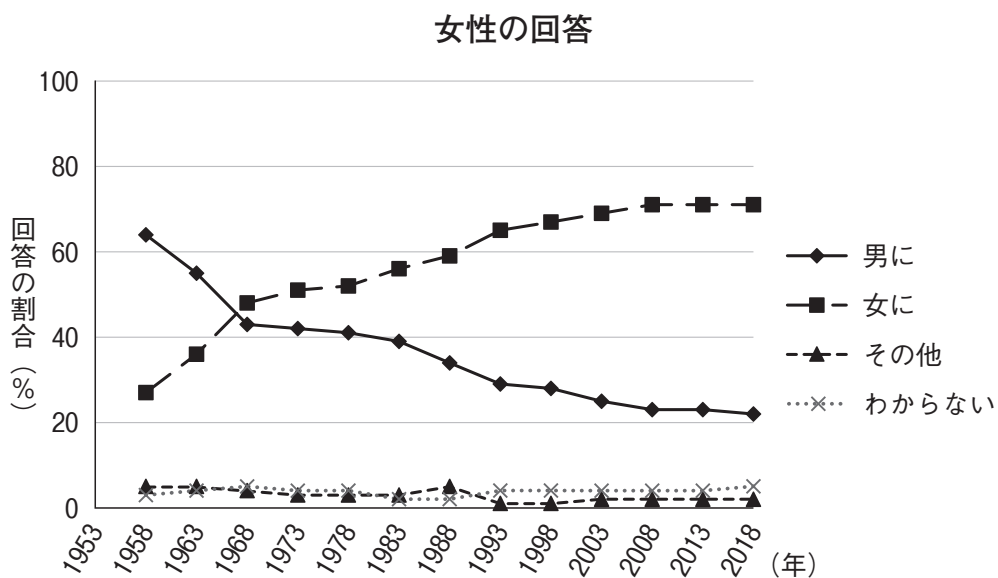
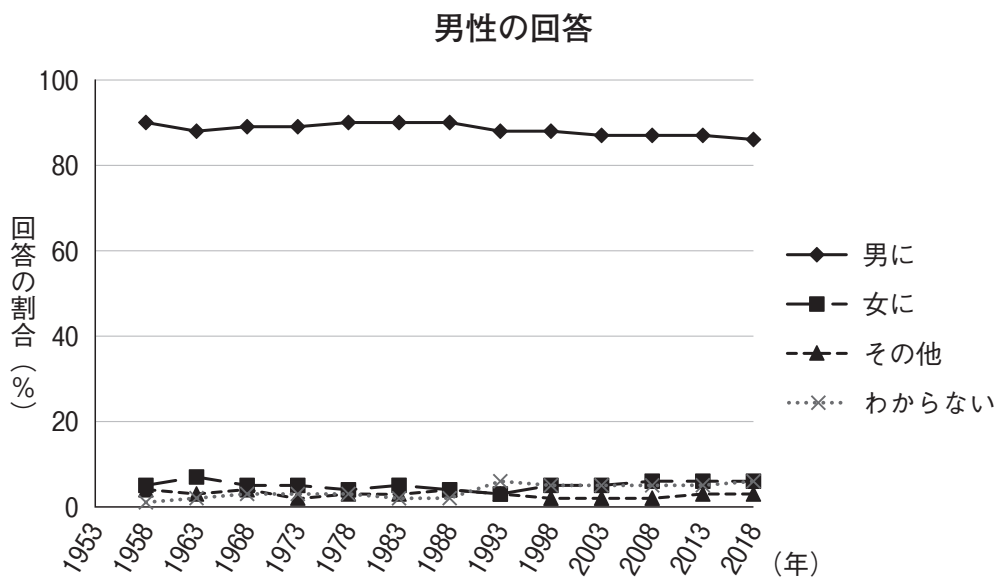
社会に満足か



(出典) 統計数理研究所「日本人の国民性調査」より作成

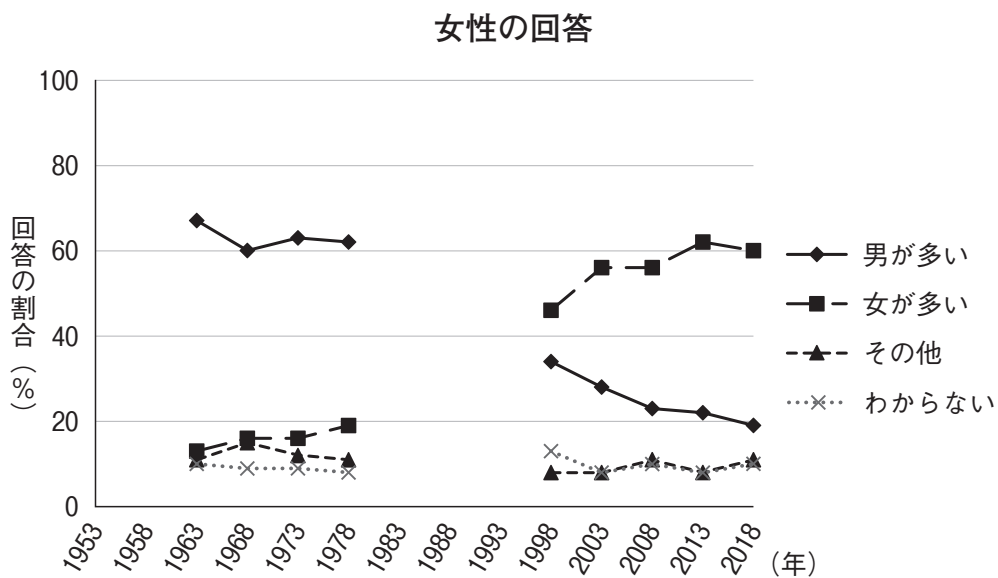
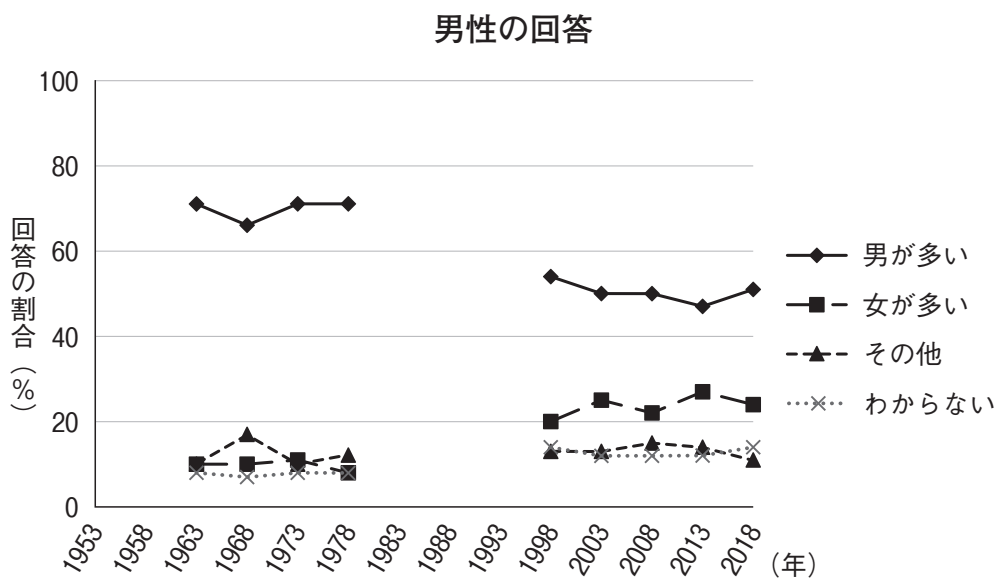


図4 もう一度生まれかわるとしたら、あなたは男と女の、どちらに生まれてきたい  
 と思いますか？（男女別回答）



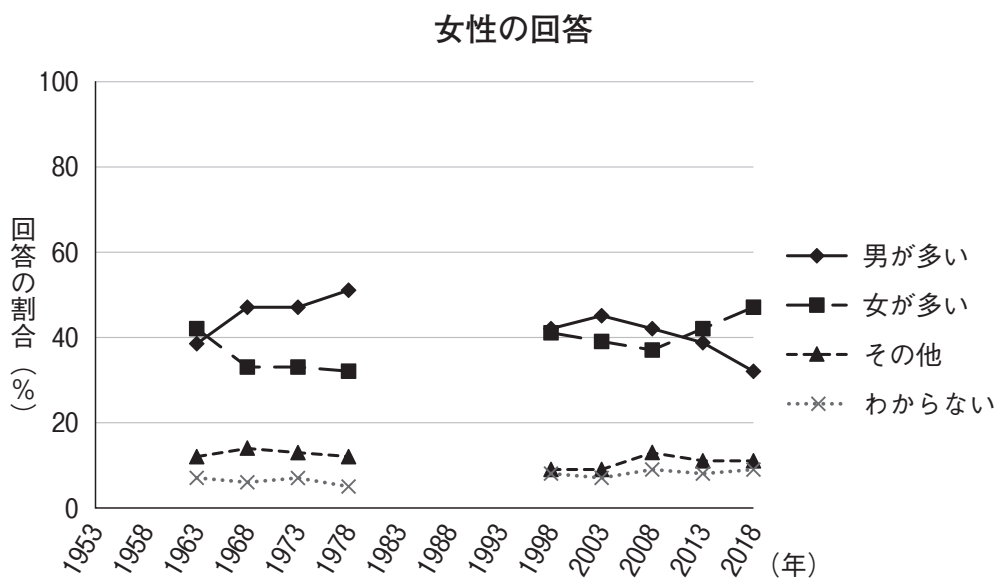
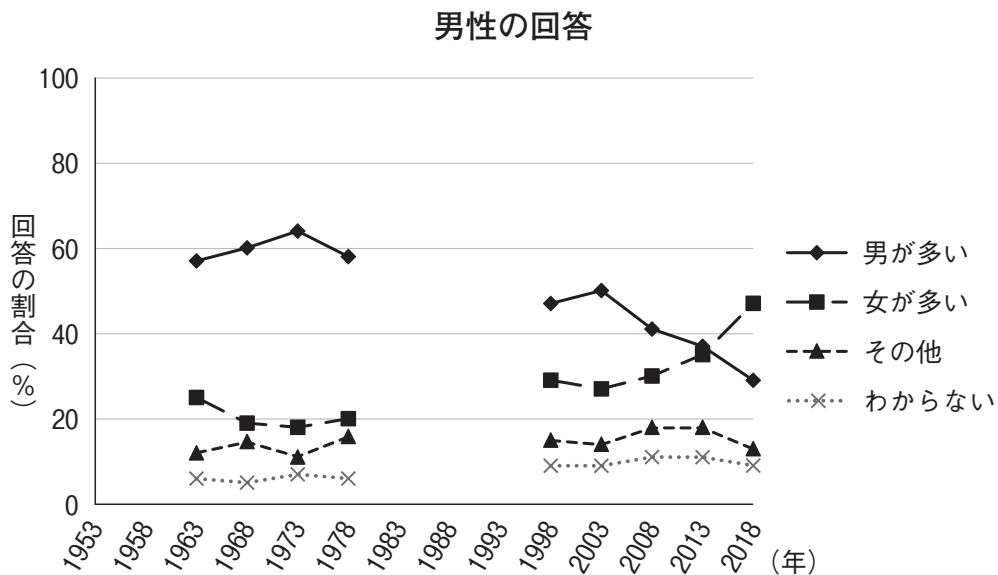
(出典) 統計数理研究所「日本人の国民性調査」より作成

図5 男女でどちらの方が楽しみが多いと思いますか？（男女別回答）



(出典) 統計数理研究所「日本人の国民性調査」より作成

図6 今の日本では、ひとくちでいうと、男と女ではどちらの方が苦勞が多いと思  
いますか？（男女別回答）



(出典) 統計数理研究所「日本人の国民性調査」より作成